

# ときわ走林会が「近」の利? でアベック優勝

2006年12月16-17日 公認 京葉OLクラブ 北総大会 (千葉県柏市 船橋市)

三条OLC  
藤島由宇

京葉OLクラブ創立 30 周年記念プロジェクトの第2弾。公園と森という2つの異なるタイプのトレインで、2日間にわたりスプリントならではの楽しさと難しさを堪能できた。

## 1 日目 柏の葉公園



会場は落葉が進み冬模様

初日のトレインは公園。池や立ち入り禁止の箇所を大胆に横断するレグが設けられ、素早いルート選択力やハイスピードを維持した走力が試された。なお参加者は220名であった。

またこの日はトレイルOも実施され、Aクラスに62名、Nクラスに16名が参加した。



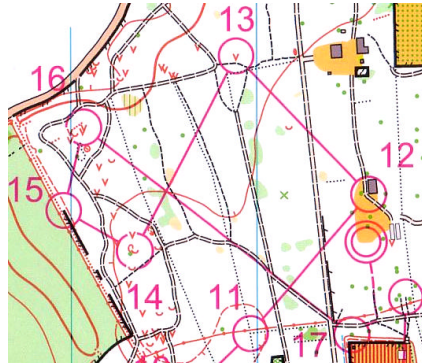
M/W21A、M35A 終盤へのロングレグ

## 2 日目 船橋県民の森



直進直進また直進・・・!

2日目のトレインは通行可能性が抜群で平坦な森。小道は発達しているが落ち葉に覆われており、スピードを出していると小道であることの判断がつきにくく、いかに正確な直進ができるかが鍵となった。なお2日目は170名の参加者を集めた。



M/W21A、M35A 直進が連続する後半のレグ

## M/W21A はときわがアベック優勝

表彰は2日間の合計成績で行われた(ただしM/W12、B、Nクラスは各日ごとに表彰)。M21Aは2日間とも2位と安定した走りを見せた小泉成行選手(ときわ走林会)が、W21Aは両日とも1位で1分35秒の大差を付けた朴峠周子選手(ときわ走林会)がそれぞれ優勝した。

小泉選手「2日とも崩れなかったのが好成績に繋がった。自宅から近かったことも良い影響を与えたと思う(笑)」



表彰式でガッツポーズの小泉選手

朴峠選手「両日とも1位で嬉しい。この大会はこれまでの指標としていた大会であったし、これからの指標にもなるでしょう。」



賞状を胸に笑顔の朴峠選手

## M/W12 では宮本兄妹が連日V

今大会では家族オリエンティアも多数参加し、低年齢クラスでもジュニアたちが2日間を競い合った。

M12は両日とも宮本樹(たつき)選手(京葉OLクラブ)が優勝で遠藤崇志選手(東京OLクラブ)が2位。W12では両日とも宮本和奏(わかな)選手(京葉OLクラブ)が優勝し、羽鳥咲和(さな)選手(川口OLC)が2位、小林瑠衣紗(りいさ)選手(ES関東C)が3位となった。



向かって左から宮本、羽鳥、小林選手



宮本選手(左) 遠藤選手(右)



## マスコット「30 祝ネコ」



今大会でプログラムや地図、そして役員・トレーナーにも登場したマスコットキャラクター「30 祝 (いわい)ネコ」(写真上)。デザインは京葉OLクラブの宴会部長こと宮佐美紀さん(写真下)。



インカレをはじめとする学生主体の大会では、このようなマスコットキャラクターを作る動きが定着しているようです。今回の大会役員も学生時代から活躍しているメンバーが中心でした。次はどの大会でどんなキャラクターがお目見えするのでしょうか。

## トレイルOは2名同点優勝



第3回全日本選手権大会E権取得対象大会で、2007年の世界トレイルO選手権日本代表選考指定大会となった今大会にはAクラスに62名が参加し、奥田健史コースプランナによる13個のコントロール+1タイム・コントロールに挑んだ。

大会直前には柵で囲まれたドッグランエリアが公園内に設置されたため、やむなくキャンセルされたコントロールもあった(ラストコントロールからフィニッシュまでの距離が長かったのはそのため)。

奥田健史コースプランナ「今回は予想以上に多くの皆様に参加してくださり、大変嬉しく思っています。Aクラスで満点が3名も出まして、皆様のレベルの高さを実感しました。次回の30周年大会ではトレイルOも2日間開催しますので、皆様のご参加をお待ちしています。」

優勝は町井稔選手(多摩OL)と山

口尚宏選手(入間市OLC)の2名。町井選手はトレイルOランキング対象大会としては初優勝、山口選手も2005年3月の日光インカレ併設大会以来の優勝、しかも2回連続同点優勝という珍しい記録を残すこととなった。なお2選手は14点満点・10秒の成績で、世界選手権代表選考大会としての11ポイントを獲得した。

山口選手「久々に満点で優勝でき嬉しい。やはり満点だと正解表をもらって答え合わせをした時の爽快感が違う。今後も満点を目指して頑張りたい。」



後藤実行委員長(右)より賞状を授与される山口尚宏選手(左)と拍手で讃える小山選手(中)

## 恒例！コース検討会

トレイルO競技の後は、恒例のコース検討会。参加者がトレイン内に戻り、フラッグの設置の方法や解法について議論をした。その中で特に議論された2つの課題を振り返ってみたい。



「A-E 北の線状のやぶ、南側」。コントロールの南にある植え込みの切れ目や、南の建物に向かう横道の角から角度を測って正解を求めるが、フラッグの間隔が2.5m(地図上で0.5mm)無かったため判断が難しいという指摘があった。なお、手が不自由な参加者もあるため、細かなコンパス操作を必要としない課題が良いとされている。



「A-E 尾根」。正解者はオープンと林の表記を現地と対応させており、北東にある建物を手がかりに考えた参加者が誤答をしていた。地図表記において、建物とフラッグ位置の整合性を取る必要があったようだ。

## 船橋では強化練習も実施



2日目の船橋県民の森では、トレイルO研究会の強化事業としてスプリントのレース後にタイム・コントロール(TC)の特訓が行われた。

参加者は16名。コースは田中徹さん(京葉OLクラブ・写真)により6カ所が設定され、参加者は名前の五十音順に並び、順番に挑戦した。



挑戦中の参加者と、見守る参加者

一度6個ものTCに挑む機会は通常の大会では当然なく、集中力の必要なトレイルOの中でも勝敗を分ける重要なTCの連続に参加者も後半はやや苦しそうな表情を見せていた。

6個の課題を全て正解したのは松川精一さん(勝浦市・計63秒)、石井龍男さん(千葉OLK・計69秒)、今井信親さん(ワンダラーズ・計86秒)の3名。4問正解が10名と多数を占めた。

なお、3月31日、4月1日の第27回京葉大会でも強化合宿が行われる予定だ。

(藤島由宇)